奥美濃・白川の冬の訪れと心なごむ一服のお茶

白川の風

ふるさと茶屋 情報誌
2010年冬号 vol.35

ここ白川では朝夕の冷え込みが日ごとに増して、冬の気配を感じる頃となりました。時の流れは早いもので今年も残りわずかとなり、改めて今年を振り返ると新型インフルエンザの流行、春の天候不順、きびしい猛暑＋残暑など、自然環境の異常さが記憶に残るものとなりました。
さてこれからの季節には、暑い夏の間も涼しい冷蔵庫の中でじっくりと熟成した、ますぶち園のお茶が一段と美味しい季節でもあります。昔様の「くつろぎ」の時間のお供に、また、1年を締めくくる贈りものとしてますぶち園の白川茶を是非どうぞ!!

茶畑日記 厳しい寒さに向けて 冬じたく

秋の作業は、長い冬の前に来年の新茶に向けての作業です。人の背丈よりも大きくなったススキを急斜面から刈り取り、株間に敷き詰めていきます。白川の冬はとても厳しく、土中の水分まで凍って茶樹の根が枯れてしまうこともあります。自然界にあるものを肥料として使った土はふんわりやわらかいです。さらにススキを敷き詰めることで寒さが少しでも和らぐよう、茶樹への思いやりを込めて作業が進められました。

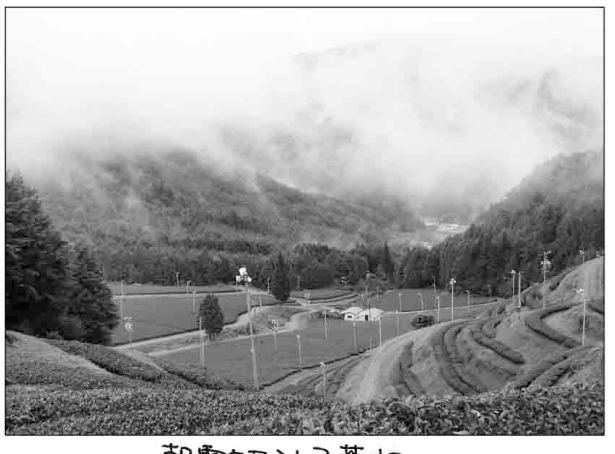
ていねいに敷き詰めていきます

二人の息もピッタリ!! 慎重に…

秋整枝は夏から秋にかけて伸びた枝の頂芽を刈り取り、来年の一番茶の摘採面をそろえるために行われますが、時期や刈り取る高さにより新芽の収量に影響してきます。茶畑の場所と茶樹の状態を見ながら、作業するペアの呼吸を合わせて慎重に進められました。

茶園管理のスタッフや手伝いに来てくれた近所のおばさんたち皆が茶畑と必死に向き合った作業も終わりました。 今年は異常気象続きで大変な1年だっただけに、茶畑に対する愛着も前に増して一段と深まり、茶畑に"厳しい寒さになるけどがんばって!!"と声をかけてました。

記：長谷部



～朝霧たちこめる茶畑～

芸能の里・黒川 「東座」20周年 未来へと伝えたい。伝統文化

東座の玄関

黒川地区にある東座は1889年に建てられた芝居小屋です。1990年に大改装されこれを機に中村勘三郎さんが名誉館長に就任。今年で20周年を迎えました。地元の歌舞伎保存会を中心に子供から大人までいろいろな人たちによる「東座ふれあい公演」をはじめ、大衆芸能、発表会などさまざまなイベントが行なわれています。 去る9月21日には白川町商工会青年部黒川支部主催の「落語家 柳家さん生独演会」も開催され落語に大勢の人が詰めかけました。
また、建物の周辺は農村公園として整備され、近くを流れる鱒渕川とともに住民の憩いの場となっています。

新聞折込も入りました

落語家
柳家さん生
独演会 in 東座
平成22年9月21日（火曜日）
PM7:00 開場 PM7:30 開演 PM9:00 終了予定
料金：1,500円 全席自由（当日いらっしゃるまでお待ちください）
お座布団、ミカンは用意してございます。
チケット販売：白川町・黒川いきいきプラザ・白川茶屋・白川郷スキッパーズ
電話予約・お問い合わせは：090-1824-7127（野口）
090-2181-3218（長屋）
※当日、お立ち席出ます（数予約し、お当日にお問い合わせください。）
あなたは、ふるさとを愛していますか？
ふるさとを愛する人、ふるさとを愛したい人、ふるさとを愛してやまない人、ふるさとを愛してやまない人、ふるさとを愛してやまない